

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成30年8月2日(2018.8.2)

【公開番号】特開2016-185143(P2016-185143A)

【公開日】平成28年10月27日(2016.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2016-061

【出願番号】特願2015-192608(P2015-192608)

【国際特許分類】

A 0 1 K 89/033 (2006.01)

A 0 1 K 89/015 (2006.01)

【F I】

A 0 1 K 89/033 5 0 1

A 0 1 K 89/015 D

【手続補正書】

【提出日】平成30年6月13日(2018.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 リール本体部及び第 2 リール本体部を有するリール本体と、
前記第 1 リール本体部と前記第 2 リール本体部との間に配置されるスプールと、
前記スピールの回転を制動するよう構成されたドラッグ機構と、
第 1 領域と第 2 領域との間を揺動可能に前記第 1 リール本体部に取り付けられ、前記ドラッグ機構の制動力を調整するためのドラグレバーと、
前記ドラグレバーが前記第 1 領域にあるときに前記ドラグレバーから突出し、前記ドラグレバーが前記第 2 領域にあるときに前記ドラグレバー内に退避する係合部材と、
を備える、両軸受リール。

【請求項 2】

前記ドラグレバーが前記第 1 領域にあるとき前記スピールの回転の制動が解除され、前記ドラグレバーが前記第 2 領域にあるとき前記スピールの回転が制動される、
請求項 1 に記載の両軸受リール。

【請求項 3】

前記第 1 領域と前記第 2 領域との間の第 3 領域において、前記ドラグレバーが前記第 2 領域に近づくに連れて前記制動力は大きくなる、
請求項 1 又は 2 に記載の両軸受リール。

【請求項 4】

前記ドラグレバーが前記第 1 領域から前記第 3 領域に揺動したとき、前記係合部材は前記ドラグレバーから突出しており、

前記ドラグレバーが前記第 2 領域から前記第 3 領域に揺動したとき、前記係合部材は前記ドラグレバー内に退避する、
請求項 3 に記載の両軸受リール。

【請求項 5】

前記第 1 リール本体部に設けられるレールをさらに備え、

前記係合部材は、前記ドラグレバーから突出又は前記ドラグレバー内に退避する第 1 端部と、前記レールにガイドされる第 2 端部と、を有し、

前記レールは、前記第 1 端部を前記ドラグレバーから突出させるように構成された第 1 カム部と、前記第 1 端部を前記ドラグレバー内に退避させるように構成された第 2 カム部と、を有する、
請求項 1 から 4 のいずれかに記載の両軸受リール。

【請求項 6】

前記レールは、第 1 経路及び第 2 経路を有しており、
前記ドラグレバーが前記第 1 領域から前記第 3 領域に揺動したとき、前記係合部材の第 2 端部は前記第 1 経路を通り、
前記ドラグレバーが前記第 2 領域から前記第 3 領域に揺動したとき、前記係合部材の第 2 端部は前記第 2 経路を通る、
請求項 3 又は 4 を引用する請求項 5 に記載の両軸受リール。

【請求項 7】

前記レールは、前記第 1 及び第 2 経路と連通する第 3 経路と、ワンウェイ機構と、を有し、
前記ワンウェイ機構は、前記第 2 端部が前記第 3 経路から前記第 1 経路へ移動する際は前記第 3 経路と前記第 2 経路とを封鎖し、前記第 2 端部が前記第 2 経路から前記第 3 経路へと移動する際は前記第 3 経路と前記第 2 経路とを連通するように構成される、
請求項 6 に記載の両軸受リール。

【請求項 8】

前記ワンウェイ機構は、板バネである、
請求項 7 に記載の両軸受リール。

【請求項 9】

前記第 1 端部が退避する方向において前記係合部材に所定値以上の力が作用したときに、前記第 1 カム部は前記第 1 端部が退避する方向に移動するように構成される、
請求項 5 から 8 のいずれかに記載の両軸受リール。

【請求項 10】

前記係合部材が退避する方向に前記係合部材を付勢する付勢部材をさらに備える、
請求項 1 から 9 のいずれかに記載の両軸受リール。

【請求項 11】

前記係合部材と前記ドラグレバーとの間に配置される樹脂製のカバー部材をさらに備える、
請求項 1 から 10 のいずれかに記載の両軸受リール。

【請求項 12】

前記ドラグレバーの揺動に伴い音を発生させる音出し機構をさらに備える、
請求項 1 から 11 のいずれかに記載の両軸受リール。

【請求項 13】

前記音出し機構は、
前記ドラグレバーから突出する打撃ピンと、
前記リール本体に設けられ、前記打撃ピンと衝突する被打撃部と、
前記打撃ピンを前記被打撃部に付勢する付勢部と、
を有する、
請求項 12 に記載の両軸受リール。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

ドラグレバー 5 は、第 1 リール本体部 21 に取り付けられている。ドラグレバー 5 は、

ドラグ機構 4 の制動力を調整するための部材である。ドラグレバー 5 は、スプール軸 30 を中心に揺動可能である。図 2 に示すように、ドラグレバー 5 が揺動する領域は、第 1 領域 A 1、第 2 領域 A 2、及び第 3 領域 A 3 を有する。第 3 領域 A 3 は、周方向において第 1 領域 A 1 と第 2 領域 A 2 との間の領域である。すなわち、ドラグレバー 5 は、第 1 領域 A 1 と第 2 領域 A 2 との間を揺動するように構成されている。なお、ドラグレバー 5 は、第 1 及び第 2 領域 A 1, A 2 内でも揺動する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

第 2 端部 62 は、レール 8 にガイドされている。詳細には、第 2 端部 62 は、ドラグレバー 5 から径方向内側に突出しており、レール 8 の経路 80 にガイドされている。ドラグレバー 5 が揺動すると、この第 2 端部 62 がレール 8 の経路 80 にガイドされて軸方向に移動する。この結果、第 1 端部 61 がドラグレバー 5 から突出したり、ドラグレバー 5 内に退避したりする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

次に、釣糸を巻き上げるためにハンドル 7 を図 2 の時計 回り に回転させる。ハンドル 7 がドラグレバー 5 の位置にくると、ハンドルアーム 71 が係合部材 6 の第 1 端部 61 と係合する。そして、そのままハンドル 7 を回転させると、係合部材 6 の第 1 端部 61 がハンドル 7 と係合しているため、ドラグレバー 5 がハンドル 7 の回転に伴って第 1 領域 A 1 から、第 3 領域 A 3 を経由して、第 2 領域 A 2 に向かって揺動する。ここで、ドラグレバー 5 が第 3 領域 A 3 にあるとき、第 2 端部 62 は、第 1 経路 801 を通るため、第 1 端部 61 はドラグレバー 5 から突出した状態を維持している。すなわち、ドラグレバー 5 が第 1 領域 A 1 から、第 3 領域 A 3 を経由して、第 2 領域 A 2 に移動するまで、係合部材 6 とハンドル 7 との係合が維持されている。